



平成30年10月発行

発行：香川医療生活協同組合
高松協同病院

発行者：院長 北原孝夫

編集：高松協同病院 広報委員会

H P: <http://t-kyodo.com/>

第8回日本リハビリテーション栄養学会学術集会

**第8回
日本リハビリテーション栄養学会学術集会**
The 8th Annual Meeting of Japanese Association of Rehabilitation Nutrition

～ 多職種で未来をひらくリハ栄養 ～

会期：平成30年12月1日(土)
会場：サンポートホール高松
大会長：植木昭彦(高松協同病院 副院長)
実行委員長：宮崎慎二郎(KKR高松病院)

学術集会事務局
〒760-0018 香川県高松市天神前4-18
KKR高松病院 リハビリテーションセンター(石川淳)
TEL: 087-861-3261 FAX: 087-835-0793
E-mail: jarn8th@gmail.com

2018年12月1日(土)に、高松市サンポートで第8回日本リハビリテーション栄養学会の学術集会が開かれることとなり、私が大会長をさせていただくことになりました。この学会は、リハビリと栄養管理を多職種で考える学会で、様々な医療職が参加して行われます。今回は、「多職種で未来をひらくリハ栄養」をテーマに、特別講演や教育講演、シンポジウム、職種別企画、一般演題発表などを予定しています。KKR高松病院の実行委員長 宮崎さん、事務局 石川さんとともに、多職種でのリハ栄養の実践で、未来がひらける契機となるような学会にしたいと準備中です。4会場で並行して企画があり、第1会場の大ホール(3F)では、基調講演・特別講演・教育講演などがあります。第2会場(5F)・第3会場(6F)は、職種別企画とシンポジウムです。職種別企画は、理学療法士・歯科衛生士・作業療法士、言語聴覚士、看護師、管理栄養士、薬剤師の学会担当者が、それぞれに企画しています。シンポジウムは「リハビリテーション栄養診療ガイドライン」をテーマに、エビデンスに基づいたリハ栄養の実践を目指して行います。ポスター会場(1F)は、全国から集った78の一般演題の展示・発表の場です。ポスターの発表が午前・午後14回あります。当院からも「要支援・要介護者の栄養状態と生活習慣との関係性」で発表を予定しています。

リハビリテーションと栄養とを多職種協働の視点で結びつけた「リハ栄養」の概念は、まだはじまったばかりですが、この学会は回を重ねるごとに大きく発展してきています。運動後に栄養補給をする、低栄養時に過度の運動は危険など、ここ数年で当たり前になった概念もここから発展してきました。このような全国学会が高松で行われることはなかなかありません。もし、お時間があれば、地元のサンポートホール高松で行われる学術集会へ是非御参加下さい。



大会長 植木 昭彦
(高松協同病院 副院長)

○周辺地図



通所リハビリ 介護報酬改定とサービスの内容について

2018年4月に介護報酬改定されました。通所リハビリテーションサービスと通所介護サービスの方向性が具体的に示された内容だったと思います。通所リハビリテーションにおいて、要介護者対象サービスでは、長時間サービスの基本料の引き下げがあった一方、リハビリテーション専門職を十分に配置していることや、医師の関与（リハビリテーションマネジメント加算）によるマネジメントを実施することで、加算の算定が認められるようになりました。また、介護予防サービスについても、リハビリテーションマネジメント加算、つまり医師やリハビリテーション職によるマネジメントを行うことを求められている点は同じでした。

さて現在、当事業所は、6～7時間、1～2時間、介護予防と3つのサービスを展開しています。今回の改定を受け、当事業所のサービスの見直しを行うようにしています。まずは、介護予防、短時間サービスである1～2時間サービスにおけるリハビリテーションマネジメントとして、具体的で実現可能な利用目標を設定することから始めています。そこで、事例をいくつか提示したいと思います。

介護予防：Aさんは、県外から香川県に引っ越して1年以上経ちました。引っ越し前は電動自転車に乗って買い物に行っていましたが、引っ越し後は電動自転車に乗れず、外出は香川在住の娘と一緒にいくか介護予防通所リハビリテーション利用時のみでした。そこで、目標を「電動自転車で買い物に出る」ことを掲げ、サービス利用中の運動内容を変更したり自宅訪問を行ったりした結果、近隣のスーパー等に行くことができるようになりました。

1～2時間：Bさんは、回復期病院を退院後、1～2時間サービスを利用することとなりました。利用開始前のサービス担当者会議では、1～2時間サービス利用の目標（約3ヶ月）を「自宅で行う自主練習が定着する」としました。その間、自宅環境を踏まえて行える自主練習をサービス利用中に行ったり、ツールを作成したりしたことで、自主練習が定着することができました。一方、その過程で「畑作業をしたい」という新たな目標が生まれたため、現在もその目標達成に向けて、職員や家族と一緒に取り組んでいます。

全ての利用者様に対して、これらの事例のようなリハビリテーションマネジメントを行えているとは言えませんが、利用者に寄り添い、またその人らしい生活を送ることができるような支援を行える事業所になっていきたいと思っています。

介護予防リハビリテーションマネジメント加算

改定前	改定後
なし	330単位/月

リハビリテーションマネジメント加算（抜粋）

	改定前	改定後
I	330単位/月	330単位/月
II	1020単位/月、又は700単位/月	850単位/月、又は530単位/月
III	なし	1120単位/月、又は800単位/月

リハビリテーション提供体制加算（抜粋）

	改定前	改定後
6時間以上7時間未満の場合	なし	24単位/1回の利用



虹の箱

当院の外来待合にある机の上に小さな投書箱があります。利用者の皆様からのご意見を投書いただくための箱です。月に一度、利用者様代表として組合員さんからなる「利用委員会」の方々が開封してその内容の検討と対策を職員と一緒に考えています。内容の一部は、院内の掲示板に公開されています。全てをすぐの実現できるわけではありませんが、最近実現した例に「売店を置いて欲しい」という声に対して、月2回ですが、移動販売車に来ていただくようになりました。入院患者様や通所リハビリの利用者様に喜ばれています。この他、入院の患者様や通所リハビリ、外来リハビリ、訪問リハビリをご利用の皆様への満足度アンケートを定期的実施し、利用者様の希望実現に向けて取り組んでおります。（虹の箱は各病棟など合計6カ所に設置しています。）





9月14日、病棟班会*の一環で、看護学生さんによる「笑いヨガ」を行いました。

「笑いヨガ」とは、誰でもできる笑いの健康法です。笑うとからだも気分も変わります。免疫系・神経系・内分泌系の全てに影響があると言われています。体操としての笑いでも、おかしいと感じて笑っても、からだへの健康効果は同じです。グループで笑っているとおもしろくなくてもだんだん楽しくなってくるので、無理なく続けられる運動です（日本笑いヨガ協会ホームページより）。

自分で手を叩きながら笑ったり、隣の患者様とハイタッチしながら笑ったり、最初は気恥ずかしいところもありましたが、どんどん笑い声が大きくなっていきました。さらに若い看護学生さんと手をつないで笑うことで、みんな素敵な笑顔になっていました。

*班会とは、医療生協の活動の1つで、地域で3人集まったら「班」が作れます。そこで健康チェックや、病院の職員と一緒に学習会や体操等を行っています。現在病棟では入院中から医療生協の活動に触れていただくことを目的に、月に1回みんなで集まって医療生協の説明と共に、医師や管理栄養士さんとの座談会等、定期的に行っています。



第16回高松協同病院

健康まつり

出あい ふれあい 支えあい
～心をつなぐまちづくり～

- 各種イベント(予定):木太中学校プラスバンド
和太鼓 バンド演奏・ダンス・阿波踊り 等
- キッズコーナー:ヨーヨー・おたのしみくじ 他
- 健康チェックコーナー:骨密度測定も予定(500円)
- 作品展コーナー ●バザーもあります

お楽しみ
抽選会
あります

ボン菓子
無料進呈

日時/ **2018年10月28日(日) 10:30~14:30**

場所/ **高松協同病院 駐車場**

※雨天の場合、屋内駐車場で行います。 ※パチンコ店への駐車はご遠慮下さい。

※お車でお越しの場合、できるだけ乗り合わせてお越しください。

主催/  **香川医療生活協同組合・高松協同病院 TEL 812-5331**

インフルエンザ予防接種のお知らせ

冬が近づいてきました。気になるのがインフルエンザの流行です。感染性が強いので職場の職員が全員感染という場合も少なくないようです。昨年度はインフルエンザワクチンの生産が遅れたため、初期の段階では希望者全員に予防接種が行えない事態が発生しました。

日本医師会及び香川県健康福祉部薬務感染症対策課長からの通知によれば、今年度は製造予定量、10月当初の供給可能量は近年の状況から見た場合、不足は生じないと予想されていました。10月15日現在、総生産量は確保されそうですが初期の入荷が遅れています。当院でも予約が必要になる場合がありますので、お問い合わせの上お越し下さるようお願いいたします。ワクチンの効き目は接種後2週間以降と言われており、まわりが感染したのを見てからでは遅いこととなります。お早めの接種をお勧めします。



外来リハビリテーション科

現在外来リハビリテーションは、PT2名・OT2名・ST1名が所属しています。リハビリテーションの対象者は、在宅で過ごされている方が医療保険を利用してサービスを利用されています。特に最近ではパーキンソン病の患者様の通院が多くなってきており、パーキンソン病のリハビリに力を入れてきています。年に1回以上当院主催で通院患者様を対象とした患者家族会を開催し、疾患に対する学習の場や患者様同士の交流の場を提供してきました。特に今年度パーキンソン病のリハビリでエビデンスの高い、LSVT-BIG (Lee Silverman Voice Treatment)、LSVT-LOUDの資格を取得し、より効果的なリハビリの提供ができるように進めています。上記のリハビリに興味がある方や、又その他の疾患の方もお気軽に外来リハビリへご相談下さい。



介護支援センター協同

当事業所は、平成19年に開設し12年目を迎えケアマネジャーは5名となりました。『何でも気軽に相談できる支援事業所になる』を目標に、日々奮闘しています。

介護保険は、40歳以上の皆さんが加入者(被保険者)となって、保険料を納め、介護が必要になったときには、費用の一部を負担することで、介護保険サービスを利用できる制度です。ケアマネジャーは、利用者の方のご希望を聞きながら、心身の状態にあったサービスが利用できるように支援する介護サービスの窓口です。利用者様や家族の望む暮らしに少しでも近づけるようにケアプランの検討を行っています。

3年ごとに改定となる介護保険はますます複雑化してきています。介護保険について分からないことがあれば、当事業所にお気軽にご相談ください。(Tel 087-812-5502)



～リハビリの切れ目ない連携をめざして～ 第2回高松市POS会議開催

9月25日、高松協同病院で、第2回高松市POS連携会議が開催されました。

これは、高松市内の病院や訪問・通所リハに勤務するリハビリ従事者の集まりです。今回は11施設34名が参加、高松協同病院の回復期・生活期リハの特徴・課題について紹介し、グループに分かれて交流しました。「協同病院の取り組みはすばらしい」「患者から評判が良い」と言った声をお聞きすることができました。あわせて、退院後の生活を支えるリハの工夫、リハ職員の教育をどうするかなどの課題も出し合い盛り上がりました。

この会は、急性期から回復期・生活期の間でリハ職員の連携を強め、患者・利用者の方に切れ目のないリハビリを提供すること、交流する中でリハビリの質を上げていくことを目的にしています。第1回は県立中央病院リハ部の紹介でした。続く第3回は、生活期リハ(訪問・通所リハ)から紹介いただく予定です。

*POSとは、P;理学療法士、O;作業療法士、S;言語聴覚士のことです。



(写真は第一回開催時のものです)